

# THE~KOBECOCO

12



DECEMBER 1974 NO. 164

神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可  
昭和49年12月1日印刷 通巻164号  
昭和49年12月1日発行 毎月1回1日発行



私のクリスマス。



婦人服飾 **ベニヤ**  
神戸

神戸三宮センター街 391-5528・9  
さんちカレディタウン 391-1204



三宮センター街本店は都市計画のため仮設店舗にて営業いたしております

大阪梅田阪急三番街 372-8093  
上本町近鉄百貨店 779-1231  
ミナミ地下センター 213-6128

東京 日本橋東急百貨店 1F 211-0511  
モデル/林 あや子  
PHOTO/藤原 保之

# もうひとりのあなたとの出会い

ティールーム&ファンデーション専科



ブラッシュェール

# Blanchir

神戸市生田区江戸町95 神戸市役所・花時計裏

ティールーム 8:30a.m.~8:00p.m. PHONE 391・4168

ファンデーション専科 10:00a.m.~7:00p.m. PHONE 391・4167



# '75 SOEN DRESS COLLECTION



11月27日大阪ホテルプラザで開かれた  
装苑ファッションショーの出品作品から選びました。

パリの服飾大使館

Soen 装苑  
藤井まつ子

大丸前店 生田区三宮町3丁目45  
TEL 331-7550  
フレタ工場 灘区将軍道3丁目4-24  
TEL 881-0907

カラフルなジュエリー七宝。  
色を楽しむミキモトの新感覚。



—世界の宝石店—  
**MIKIMOTO**

神戸店=三ノ宮-神戸国際会館  
TEL.221-0062

 株式会社 ミキモト

©1974-11

★大阪支店=堂島-新大ビル TEL.341-0247

★京都支店=河原町蛸薬師BAL TEL.241-2970

★大阪=阪急・阪神・高島屋・松坂屋・近鉄ア  
ベノ店・近鉄上六店

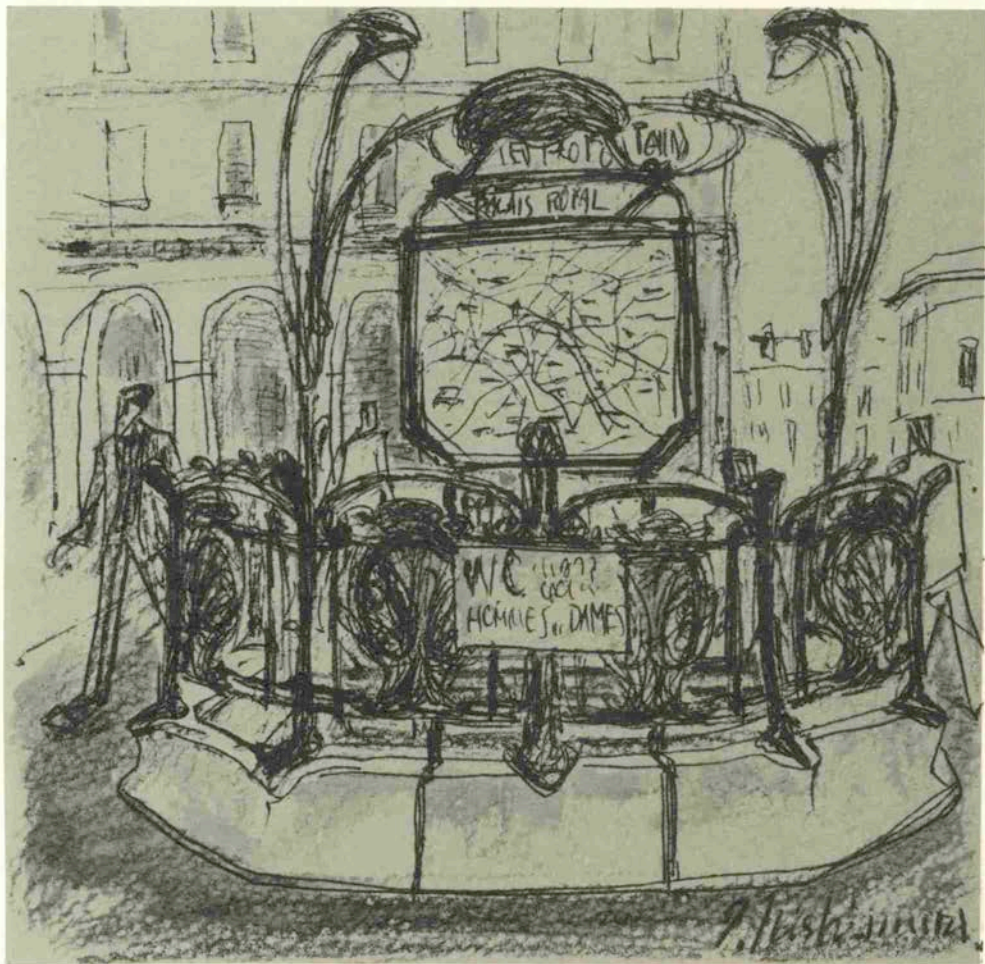
★本店=東京・銀座4丁目 TEL.535-4611



## 旅のスケッチ<12>

メトロの入口／絵・文 西村 功

街中どこにでもある古いメトロの入口だが  
僕にはこれこそバリエーションという気がしてならない。



明日のファッションになつ——滝内美鈴 ラファッションデザイナー・カメラ・米田定蔵

このたびの「コウベ・ファッションフェア'74」のコウベ・ファッションデザイン・コンテストで神戸大賞を受賞したのが滝内美鈴さん（二十三歳）。この春、神戸のニットメーカー、KKワールドに入社。現在、新鋭のデザイナーとして活躍している。高校卒業後、大阪文化服装学院で縫製などの基礎を二年、さらに、大阪モード学園のデザイナー科で二年、みっちり勉強をした。受賞対象となった作品はワンピースとコートのアンサンブル。苦心したのは、女らしさの表現。シルエットにソフトな女らしさを出したという。「ついてたんですね。素材がよかったし、縫製もよかった。仮縫いをしなかったので心配してなんですが、モデルの方が私のイメージとピッタリだったんです。このつきを逃さないようにしないといけないですね……」。毎日の仕事が勉強だともいう。いわれたことばかりやっていては駄目。難しい。まだまだこれから……。神戸ファッションの担い手として、より一層がんばって欲しいものだ。

（北野界わいにて）





# Merry Christmas

世界の一流品を集めた  
トアロード<クロス>

世界の靴バリーの最新作が揃いました。クリスマスの贈り物にゆったりと品選びができるクロスへお越し下さい。

靴と舶来雑貨  
**クロス**

神戸トアロード TEL 391-1781  
神戸生田筋 TEL 331-5983  
さんちかレディスタウン TEL 391-2562





# 踊る場所さえあれば

東仲一矩

（フラメンコ・ダンサー）カメラ・藤原保之  
グループ・ウノイウノ（El Grupo Uno y Uno）主宰

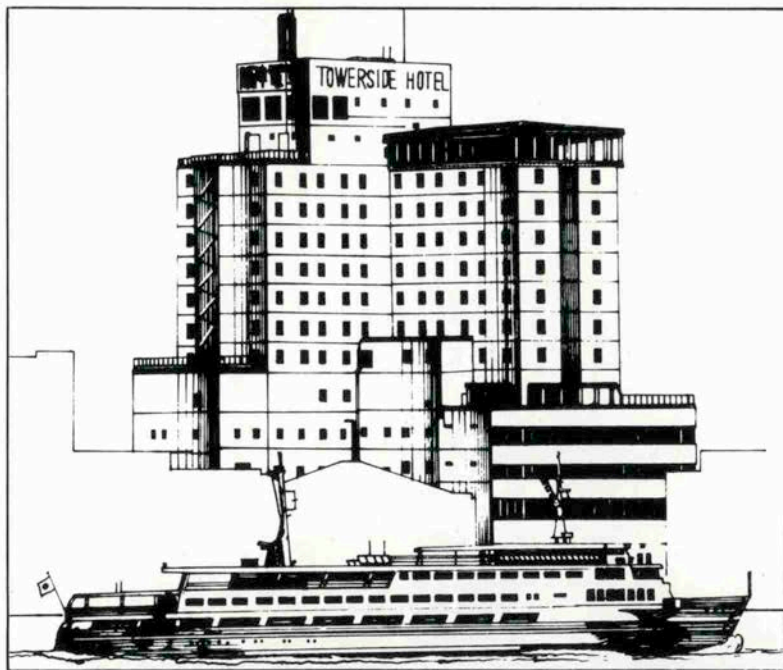
フラメンコは決して陽気な、情熱的なだけのものではないという。歴史のなかに鬱積された民族の感情が抑圧の底から自爆するとき、フラメンコの音と踊りが時空を超えて人の胸を戦慄と共感で揺さぶる。

ヨーロッパでフラメンコダンサーとして活躍していた東仲一矩さん（28歳）も、16歳の時フラメンコとの劇的ともいえる邂逅を経験した。今はフラメンコこそ自分の人生すべて、自分自身だと言いきる。スペインでも一流の「ラファエル・デ・コルドバ」で、外人でただひとり第一ソリストをつとめた自信と、やればやるほど人間一個の力の小ささを感じないでいられないという逞しさ、血が違うという決定的な事実と対峙し悩みぬいて、今は居直りだという余裕。四年ぶりの帰国は、ヨーロッパでの仕事の一時的な精算であり、これからも自分を確認するためにまたスペインに帰るだろうという。繊細なその身体に人間的な大きさを感じた。来春には神戸でリサイタルをやる予定。



# 眼下にひろがるパノラマ眺望!

地上13階の和風レストラン



## “竹亭”

関西ではじめての——

ユニークな地上13階の  
和風レストラン“竹亭”

おちついた和食とともに  
夜、昼とも、すばらしい

海と山と街の眺望を

おたのしみいただけます

ご同伴で、ご家族づれで

お気軽におこしください!

\*しゃぶしゃぶ……………¥3,000

\*すきやき……………¥3,000

\*美々卵のうどんすき…¥1,900

(いずれも税・サービス料別)

●営業時間 12:00~21:00

阪神電鉄グループ

## 神戸タワーサイドホテル

神戸市生田区波止場町1番地(中突堤すぐ北) TEL神戸(078)351-2151<大代表>





## ある集い★黒人研究の会

20年前、神戸に外人居留区があった頃、市民にとっては新しい経験であったはずの外人との出会いだが、すでに黒人と白人は同等には見られなかったという。

黒人が人間として扱われないということに、日常のこととして疑問をもつ人たちがいた。当時日本は黒人問題については決定的な遅れしか持っていなかった。現在はむしろ脚光を浴びているこの黒人問題を20年間あらゆる分野から研究し続けてきたグループがある。

人間の基本的な行動様式のひとつである差別を考えることは、対象の黒人を超えて普遍性の世界へ連っている。

### ■アフロ・アメリカ文化講座

第1期 毎月第4土曜315・30PM  
12月14日 東アフリカとスワヒリ文化／宮本正典  
1月25日 西アフリカの社会と文化事情／片岡幸彦  
2月22日 現代アメリカ社会と黒人問題／大塚秀之  
4月22日 歴史と文学の間 黒人像をめぐる／須田裕  
5月20日 アメリカ黒人の文学と文化運動／赤松光雄  
6月24日 現代アフリカの戦争と文学／小林信太郎  
7月22日 アメリカ文学にみる黒人とユダヤ人／岡節三  
8月19日 黒人体験と文学の普遍性／古川博巳  
9月23日 黒人文学の評論をめぐる問題提起と座談会／池上日出夫

会場 六甲勤労市民センター  
受講料 各期とも一五〇〇円  
特定講座の当日会費 三〇〇円  
申込先 灘区土山町 神戸外大研究所 所管付黒人研究の会

(写真は上段右から、黒崎純吉、林安彦、和田フミコ、小林信太郎、下段右から、三宅一忠、古川博巳、松野渚子、賞名美隆、上田伝明)



アルバイトーニュースは静かな<sup>フーム</sup>風潮です。

アルバイトニュースと思わず、アルバイトニュースと呼んでください。  
今や総合求人誌として変わりつつあります。

総合求人誌

神戸 078-321-0681

日刊

**アルバイトニュース**

編集・発行 (株)学生援後会

神戸支局 / 神戸市生田区中山手通3ノ64 大東ビル



## 菊花香る 文化の日に……

### 兵庫県新知事に坂井氏

11月3日（文化の日）、兵庫県知事選挙が行われた。この選挙には二期目をを目指す保守系の坂井時忠氏、社会・共産両党推せんの元副知事一谷定之丞氏、公明党推せんの元大学教授飯田忠雄氏ら5氏が立候補、激しい選挙選が繰りひろげられたが、他候補に大差をつけて坂井氏が再選。

11月7日午前10時、兵庫県庁に初登庁した坂井氏は、出迎えの職員らの拍手のなか、〈ありがとう〉〈頑張ります〉と一人ひとりにあいさつ。11時過ぎには中庭で職員を前に、向こう4年間の行政への決意を表明した。

◀県職員らに拍手で迎えられる坂井知事

### コウベスナップ

昭和49年度兵庫県  
文化賞科学賞スポーツ賞社会賞贈呈式

### 本年度文化功労者勢揃い

11月3日午後1時から神戸国際会館大ホールにて「74兵庫県文化賞フェスティバル」が開かれ、本年度の文化、科学、スポーツ、社会の各賞の贈呈式が行われた。表彰されたのは13個人と7団体。県歌壇の結集と発展に寄与した坂口保氏、現代洋画壇に確固たる地歩を築いた中西勝氏、今年春の選抜高等学校野球大会で優勝した報徳学園野球部代表らが、山口広司県副知事から銅板の表彰状とブロンズ像を贈られた。

◀壇上にズラリと並んだ受賞者の面々



# KOBECCO GALLERY <12>

## 神戸っ子 ギャラリ―

### 山口牧生

形があっても現代彫刻でありうる。作者の考えが入るとね。自分の作品を人から聞かれたらこういう考えでという自己解説ができる、これが大事ですね。感覚や情感だけで芸術をやっている時代ではないと思うんです。僕の場合は考えがまとまってから制作にかかるといふ方法論的タイプではなく、直感でやるタイプですね。石の仕事は時間がかかる。そこで一生懸命石を打っていると次のアイデアが泡みたまにブツとでてくるんです。石をコンコン打っているときやっている作品の定義が一つ一つ固まってくる。――またぐらとは、人体におけるうつろな部分である。それは女性にとってそうであるばかりでなく、男性にとってもうつろな部分である。そこはもっとも感じやすい皮膚でかこまれて、そこばくのうつろをなしている。われわれに心というものがはじめて宿ったのは、胸などではなく、それは疑いもなくこの部分なのであり、股間のわずかなすきまこそ、われらの魂のさいしよの宿であったはずである。――こういう文章で始まる股間の鳥サドルの解説。これも石を打ちつつ一字一

字確かめた自分の考えなのである。石は固いから一生懸命殴ることに集中する。木ほど情感的でないけど情感に訴えるものがある。固いけどとっても素直なのだそうだ。

この十月、神戸の東遊園地で「環境造形Q」が洋服発祥の地記念ミニメントを完成。この環境造形Qは山口氏と増田正和氏、小林陸一郎氏の三人が平等な立場で共同制作をと結成したものである。都市と環境、環境と造形、現在のように街がどんな姿を変えている上で見直さなければならぬ大切な問題。彫刻さえあれば近代都市といった誤った考えをとりさり、スペースをどう生かすか、例えば広場なら人間が集まり散っていく、人間が自由にたちまわり観賞する、そんな透明なふれあいを生む空間。そんなことをもって考えていきたいと語る。私たちとしては、そんなことをもってとって考えてもらいたい。

やまぐち まさお

●一九二七年 福岡県生 ●一九五〇年 京都大学美学科卒業 ●一九五三  
●一九六三年 自由美術 行動美術 集団現代彫刻展等に出品 ●一九六八年 小  
豆島石彫シンポジウムに企画参加 ●一九六九年 秋田本彫シンポジウム参  
加 大阪で個展 ●一九七〇年 オーストラリア石彫シンポジウム参加 ●一  
九七二年 現代美術の島展(京都) 韓日現代彫刻展(ソウル) 出品 ●一  
九七三年 小豆島坂手港石彫コンペ企画・共同制作で佳作入選 日韓現代彫  
刻展(神戸) 彫刻の森美術館大賞展(箱根) アサヒ・アートナウ73展(大阪)  
に出品 ●一九七四年 日本国際美術展 7/7/7展(神戸)に出品 西  
宮市在住 本誌主筆ブルーメール賞美術部門の第一回受賞者でもある。





股間の鳥一サドル（黒御影石）210×100×75cm